

# 全国助産所分娩基本データ収集システム2016 集計結果報告

安達久美子

## I. はじめに

2013年4月より、全国助産所分娩基本データ収集システム（以下、IT）が開始されました。2015年に『助産業務ガイドライン2014』の発刊に伴って、本システムの入力データはガイドラインに準じたものへと変更されました。

現在のITの利用者は、本会所属の助産所の76.7%です。

本稿では、2016年分を報告します。

## II. 集計方法

2016年1月1日～2016年12月31日の間に出産し、ITシステムに登録されたデータのうち助産所および自宅出産となった3,734件のデータを対象としました。データの未入力、途中で転院になった者等は除外しています。

## III. 集計結果

### 1. 妊産婦の背景

分娩歴は、初産婦721人（19.3%）、経産婦が3,013人（80.7%）でした。経産婦では、1回経産婦が1,552人（41.6%）で最も多く、次いで2回経産婦が1,028人（27.5%）でした（図1）。

平均年齢は、初産婦29.4（±4.9）歳、経産婦33.1（±4.5）歳でした。2015年に比べ、初産婦では1歳年齢が高くなりましたが、経産婦は同様でした。初産婦では35歳未満が85.2%で、経産婦では60.6%でした。

### 2. 妊娠期について

初診時の妊娠週数は、平均が18週で、20週までが66.8%を占めました。

予定日の算出にあたっての根拠は、最終月経のみ24.4%、超音波のみ56.5%、両方19.0%でした。

妊娠中に何らかの異常が認められたのは、初産婦8.0%、経産婦9.2%であり、2015年度とほぼ同様でした。異常の項目では、母子感染の危険性が最も多く4.4%でした。母子感染の危険性については、33週以降のGBS検査で陽性であったものが、全体の4.2%となっていました。貧血（Hb9.0/dl未満）は0.4%でした。

産科的既往については、切迫流産が3.2%でした。常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群の既往のある妊婦はいませんでした。

### 3. 分娩期について

分娩場所については、助産所92.2%、自宅6.1%でした。また、オープンシステムは1.8%でした（n=3801）。

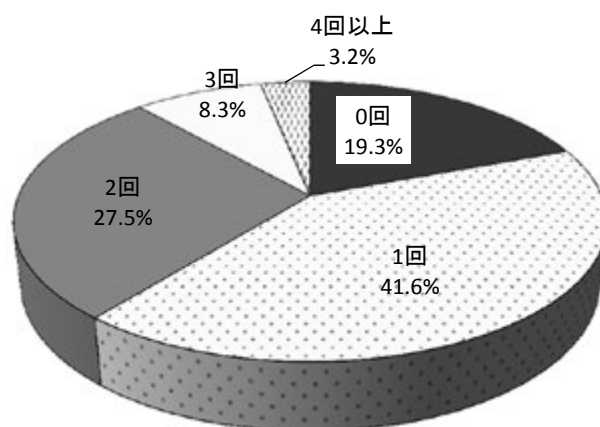


図1 出産回数

分娩場所の割合については、2015年とほぼ同様でした。

経産婦におけるリピーター（前回も同じ助産所で出産）の割合は42.4%でした。

分娩所要時間の平均は、初産婦13時間05分、経産婦5時間39分でした。初産婦で30時間以上を要したのは5.3%、経産婦で15時間以上を要したのは3.0%でした。分娩時の妊娠週数は、39週が最も多く37.7%、次いで40週が32.9%でした。37週未満が0.3%、42週以降はいませんでした（図2）。

前期破水は、初産婦14.1%、経産婦8.8%でした。分娩時の出血量は、初産婦で361ml、経産婦で338mlでした。分娩時の出血量が500ml以上であったのは、初産婦で20.0%、経産婦で17.7%でした。

会陰裂傷は、初産婦では、無42.4%、I度39.8%、II度15.0%、III～IV度0.4%でした。経産婦では、無65.1%、I度28.0%、II度6.2%、III～IV度0.03%でした。膣壁・頸管裂傷は、初産婦2.0%、経産婦0.5%でした。

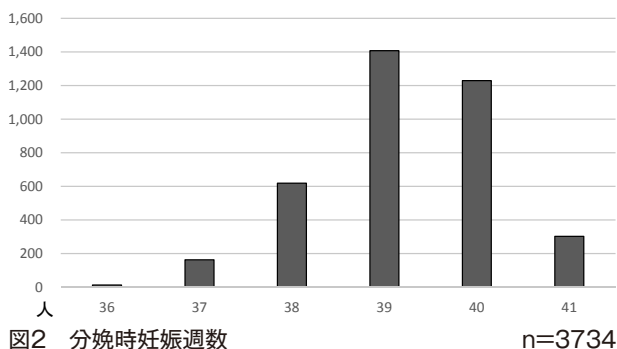
分娩時の家族立会い（複数回答）は、夫81%、子ども49%、実母21%、その他9%でした。

#### 4. 新生児について

出生時の児体重の平均は、男児3,156（±365）g、女児3,087（±330）gでした。

出生5分後のアプガースコアは、8点以上が99.7%でした。

出生直後の児の異常では、呼吸障害（多呼吸・陥没呼吸・呻吟・鼻翼呼吸・シーソー呼吸・不規則な呼吸・その他）が最も多く1.5%でした。次いで、外表異常が0.4%でしたが、髄膜瘤、鎖肛など緊急手術を要するような児はいませんでした。



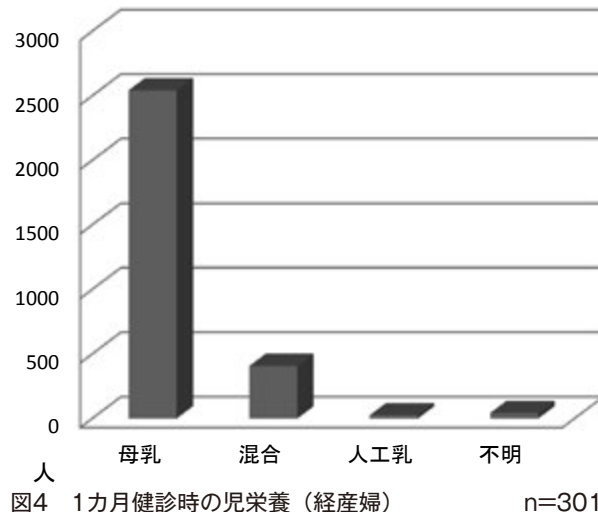
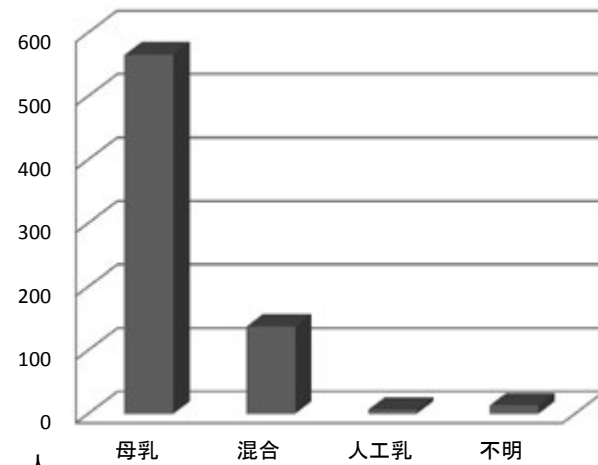
#### 5. 栄養方法

退院時の栄養方法は、初産婦で母乳のみが71.2%、混合26.6%、人工乳0.3%、経産婦で母乳のみが80.0%、混合18.8%、人工乳0.2%でした。産後1か月の時点では、初産婦で母乳のみ78.4%、混合19.0%、人工乳0.8%、不明1.8%（図3）、経産婦では、母乳のみ84.3%、混合13.4%、人工乳0.8%、不明1.4%でした（図4）。

#### IV. まとめ

前回（2015年1月～2015年12月）の4,154件のデータと比較して、大きく変わったところはありませんでした。

助産師会では、今回示したデータを自動で集計可能なシステムを構築しました。今後は、分娩基本情報収集システムをご使用いただいている助産所の皆様には、データの集計結果をより速やかにお示しして



きるよう努力していきたいと思います。また、これまで通り機関誌においては1年間の集計結果を報告いたします。助産所の皆様には、今後ともお手数をおかけしますがデータ入力をお願いいたします。

なお、データの輸入は分娩後半年まで可能としており、前年度のデータが確定しますのが翌年の7月末となっておりますことをご承知おきください。